

13. LGBT（特に、トランスジェンダー）（大塚）

(1) LGBTQ+について

資料Ⅲ-13-1 LGBTQ+について

頭文字	単語	用語	意味・説明
L	レズビアン	女性同性愛者	女性が他の女性と感情的・性的な関係を持つことを意味
G	ゲイ	男性同性愛者	男性が他の男性と感情的・性的な関係を持つことを意味
B	バイセクシュアル	両性愛者	異性愛と同性愛の両方に対して感情的・性的な魅力を感じる人を指す
T	トランスジェンダー	性自認が他の生理的な性別と一致しない人	生まれた時に割り当てられた性別にとらわれない性自認を持つ人
Q	クィア	伝統的な性的指向や性自認に当てはまらない人	伝統的な性的指向や性自認に当てはまらない人々を包括的に指す用語であり、多様性を尊重
+	プラス	さらなる多様性を示すシンボル	LGBTQ+は、LGBTQ コミュニティに含まれる他の性的指向や性自認を包括

この用語は、性的指向と性自認に関連する多様性を理解し、性的少数者のコミュニティ全体を包括するために用いられる。異なるバックグラウンドと経験を持つ人々を一つの統一された用語で表現することにより、認知度を高めることや個別のアイデンティティを尊重することが可能になる。

近年、LGBT アスリートが多くのスポーツで活躍し、成功を収めることで、スポーツ界における LGBT に対する理解と受容が大きく変化してきた。これにより、LGBT アスリートが自己を受け入れ、自由に競技に取り組むことができる環境が生まれつつある。

(2) スポーツにおける性差

近年、出生時の性と自認する性が異なるトランスジェンダーや、身体的な性の発達が多様な性分化疾患（DSDs）の選手の活躍もあり、スポーツ界にもこうした課題が持ち上がっている。

1) 女子種目に参加できる女性の「身体」の定義

スポーツ界では1960年代から、女性のみを対象に試合での性別確認検査が導入され、性染色体や男性ホルモンのテストステロン値を基準に、女子種目に参加できる女性の「身体」を定義してきた。しかし、人間の体のありようはさまざままで、生まれつきテストステロン値の高い女性らが不当に競技から排除される例もみられた。

2) スポーツ競技から不当に排除される例

陸上女子800メートルで五輪2連覇中のキャスター・セメンヤ(南アフリカ)は、先天的にテストステロン値が高く、DSDsとされる。こうした選手を対象に、世界陸上競技連盟は2018年、女子の400メートル~1マイル(約1600メートル)の種目に出場するには薬を摂取して血中テストステロンを抑制するよう義務付ける規定の導入を発表した。ありのままの体で出場できなくなり、セメンヤは撤回を求め、欧州人権裁判所に提訴する準備をしている。



2016年のリオデジャネイロ五輪女子800メートル決勝でゴールに向かうキャスター・セメンヤ(右) = リオデジャネイロで(共同)

世界陸連(当時は国際陸連)は2011年、アンドロゲン過剰症の女性アスリートは全員テストステロン値を基準値まで下げる必要があるとの裁定を下し、セメンヤも指示に従って薬を服用した。

セメンヤは当時について「それによって私は病気になり、体重が増え、パニック発作を起こし、心臓発作を起こすかもしれない状況だった。毎日、ナイフで自分を刺しているようなものだが、私に選択の余地はなかった。18歳で、走りたい、五輪に出たいという思いだったので、それが唯一の選択肢だった」と話した。

(3) スポーツにおける規則

1) 世界陸上競技連盟

・トランスジェンダーの女性が国際大会で女子カテゴリーに出場するのを禁止

※これまでの規則では、トランスジェンダーの女性は競技前の1年間、血中のテストステロンを1リットル当たり最大5ナノモルに抑えれば、女子カテゴリーに出場できた。

・DSDの選手は今後、1リットル当たり2.5ナノモル以下のテストステロン値を2年間維持

※これまでの規則では、DSDの選手は、血中テストステロン値の上限は1リットル当たり5ナノモルに抑えれば、国際大会の女子カテゴリーに出場できた。

2) 国際自転車競技連合(UCI)

・血中テストステロン値を2年間、1リットル当たり2.5ナノモルまでに抑える基準を提案

※しかし、加盟団体や選手、コーチ、国際オリンピック委員会(IOC)、トランスジェンダー団体、人権団体などからは、ほとんど支持を得られなかった。

3) 国際水泳連盟(FINA)

・トランスジェンダー選手が男性の思春期の一部を経験していた場合、女子のエリートレベルの競技会への出場を認めない

※性自認が出生時の性別と異なる選手のため、競技会で「オープン」というカテゴリーの設置を目指す。

4) 英トライアスロン連盟

・イギリスのスポーツ団体では初めて、トランスジェンダーの選手が出場できる「オープン」カテゴリーを新設

5) 英ラグビーフットボールリーグ、ラグビーフットボールユニオン

・女性だけが出場する試合へのトランスジェンダーの女性の出場を禁止

※ラグビーの国際統括団体ワールドラグビーが2020年、女子のエリートレベルおよび国際レベルの試合でトランスジェンダーの女性の出場を禁止し、最初の国際スポーツ組織となったのを受けた措置。

(4) DSDのアスリート (性発達が一般と異なる性分化疾患で先天的にテストステロン値が高い)

DSDアスリートは、性発達が一般と異なるため、身体的なリスクに直面することがある。

1) ホルモンバランスの影響:

生殖腺（卵巣または睪丸）や性腺ホルモンの産生に関連する異常を持っている。ホルモンバランスの問題は、成長や発育に影響を与える可能性がある。

2) 生殖機能への影響

生殖機能に関連する問題を経験することがある。これには、不妊の可能性や生殖器の形態や機能の異常が含まれる。

3) 骨密度の問題

骨密度が低下するリスクを増加させることがある。これにより、骨折のリスクが高まる可能性がある。

4) 心血管系の健康への影響

ホルモンバランスの異常は、心血管系に影響を及ぼす可能性がある。これにより、高血圧や心臓疾患のリスクが増加することがある。

5) 代謝の問題

代謝に影響を与えることがある。これにより、体重の増加や糖尿病のリスクが高まる可能性がある。

6) 心理的影響

身体的な特性が一般的な二元的な性別分類に合致しないため、心理的なストレスを経験することがある。性自認や性アイデンティティの問題、社会的な受容などが心理的な健康に影響を与えることがある。